
作者の現実短編

柿ノ木 虹

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タ
テ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者また
は「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒ
ナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範
囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致し
ます。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

作者の現実短編

【Zコード】

N7715X

【作者名】

柿ノ木 虹

【あらすじ】

作者の現実にあった話をちよくちよく変えた短編。
どこが本当かは皆さんの「」想像で。

さて、友達に彼女ができた。

その友達は『田中』としよう。

中三、修学旅行が終わったころに出来たらしい。

その田中はまあまあ格好よくて、なんとなくもてていたので納得した。

とりあえず

「リア充爆発しろ」

と、言つてやつた。

さて、親友にも彼女が出来た。
その親友を『加藤』としよう。
まあ、納得した。

実は加藤はハーフでイケメンなのだ。

つまり今まで出来ていなかつたのが不思議なくらいだつたのだ。

やつぱり

「リア充爆発しろ」

と、言つてやつた。

そして、眼鏡でデブでオタクな友達にも最近彼女が出来た。

その友達は『山下』としよう。

そういえば、山下はこのじろり痩せてきていたが、
驚いて驚いて驚きすぎて

「リア充爆発しろ」

と、言つのを忘れていた。

そして、俺の痩せ型で運動が出来る友達は告白されたらしい。

その友達は『中山』としよう。

中山はふつたらしい。

なので、

「リア充爆発しろ」「
と、言わなかつた。」

そんなんある日、田中が別れた。

とりあえず田中の彼女を『ひな』としよう
学校から家が近い俺の家はたまり場となつていて、その二人もよ
く來たので、ひなとは友達だ。

ある日本屋から帰つてきたときに加藤の彼女がいた。

加藤の彼女を『れいな』としよう。

親友の彼女なのでまあまあ仲がいい。

「加藤どこーー！？」

と言われてちょうど通りかかった中山とともに加藤の家に行つた。
そしたら近くのコンビニに田中とひなと加藤がいて、なぜか加藤
と田中だけが家に行つてしまい、
ひなだけ取り残されたので行つてみたら、

「別れた・・・」

などと言つたので、

「マジで？」

と、きいてみたら、

「わかんない・・・」

と、言われた。

なんでだよ！？

と、言おうと思つたが泣いていたので

「なんでだよ？」

すこしやさしめに言つた。

それでも多分らしい・・・

とりあえず家まで送つて行つてやつた。

なぜか次の日から『一人で』俺の家に来た。

俺の家はマンションで、下にそれぞれの家にピンポンできるので、一人だというのがわからずにおげてしまった。

どうせ戻っていると思ったのに・・・

そして男子の家・・・というか部屋で一人きり。

俺の漫画を読んでいるひな（女子）。

チョリーである俺には結構きつい・・・

ことはない。

俺はちゃんと自重出来る男である。

だがひなよ・・・危機感を持つどうぜ？

漫画で笑っている場合ではないのだよ。

青少年と部屋で一人きりなんだぜ？

とりあえずダメだと呟つたが・・・

「別に大丈夫じゃね？」

・・・・・・まあ、いいか。

と、呟つことで終わつた。

そして家族が帰つてきて、彼女と間違われた。

違うと言つたものの、あとで何も言つて来ないのがすぐ怖かつた。

ちなみに、田中ひなは一週間ほどしたら、またくつこつた。
さあ、

・・・・・・・・・・・・・・
俺の萌生えてしまつた『恋心』
をどうに捨ててしまつが。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7715x/>

作者の現実短編

2011年11月11日03時23分発行